

埼玉県草加市手代町会「地域継続計画（DCP）」講演会

草加市は埼玉県南東部にある県内6番目に多い人口24万5千人を有する都市で、東京都足立区と接する「埼玉都民」が多く在住している。自治会組織が充実しており、中でも手代町会は870世帯を有する大きな自治会組織である。平成26年度総会に先立って防災講演会が2月22日に開催され、その講師に辻田代表が招かれた。

当町会では、平成26年1月から特に防災活動に特化した「自主防災隊」なる自主防災組織活動が開始されたところ。従来の町会住民だけの取り組みでなく地域内の企業との連携も必要との機運がたかまり、単なる防災だけではなく地域継続計画（DCP）を学ぶことになったものである。

震災などの災害にあっても事業の継続をめざす事業継続計画（BCP）の導入は、企業ではすすんでいるが、町会が地域の機能継続を企業に呼びかけることは、前例をみないたいへんユニークな試みである。地域防災の取り組みとして地域継続計画（DCP）の概念を導入するケースは全国的にも帰宅困難者対策として都心の企業と地域や行政が取組始めた程度と思われる。講演会は、平成27年2月22日13時30分から社会福祉活動センターで開かれ、町会から160数名の住民および企業が出席した。

講義では、地域住民にとって、地域継続計画（DCP）の概念そのものがなじみないところに急にDCPといわれても、当惑するのではないと思われたので、「地域の防災力向上の新しい取り組み」と題して地域の防災力向上は「住み続けられるまちづくり」、「常時から将来自分たちのまちをどのようなまちにしたいのかを考えておくことが求められている！これが無ければ復興ビジョンは作れない！」これが原点であることを強調した。

最後に、手代町のDCPの実現にむけて、辻田講師から五つの提案（①地域ぐるみの共同勉強会、②連携訓練、③地域と企業のコミュニケーション活性化、④手代町の防災資源を生かす⑤取り組みのマイルストーンの策定）をおこなって、この有意義な講演会を終えた。